

第5回インフラメンテナンス大賞 経済産業省部門『優秀賞』を受賞


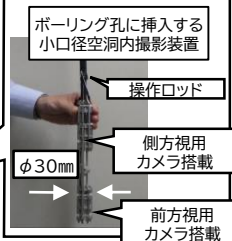

小口径空洞内撮影装置を用いた コンクリート基礎の劣化診断手法の開発

株式会社四国総合研究所

弊社および四国電力送配電株式会社、テクノ・サクセス株式会社の3社が共同開発した「小口径空洞内撮影装置を用いたコンクリート基礎の劣化診断手法の開発」が、このほど「第5回インフラメンテナンス大賞」経済産業省部門で『優秀賞』を受賞しました。

同賞は、総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、防衛省、農林水産省の各省が連携し、国内の社会資本のメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰し、ベストプラクティスとして広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組促進、およびメンテナンス産業の活性化とインフラメンテナンスの理念の普及浸透を図ることを目的に、平成28年に創設されました。

公募期間中(令和3年3月15日から同年6月18日迄)に、全国から全247件(うち電気・ガス設備に係るものは29件)の応募があり、選考委員会(委員長:三木千壽 東京都市大学学長)の審査を経て各省ごとに大臣賞、特別賞、優秀賞が決定されました。今回の受賞にあたっては、コンクリート基礎の診断に係る業務の効率化やコスト低減等が高く評価されております。

区分	内容	
応募部門	技術開発部門	鉄塔コンクリート基礎の診断状況
案件名	小口径空洞内撮影装置を用いたコンクリート基礎の劣化診断手法の開発	
団体名	四国電力送配電株式会社 株式会社四国総合研究所 テクノ・サクセス株式会社	
概要	<ul style="list-style-type: none">○コンクリート構造物の点検に小口径ボーリングを採用すれば、構造物へのダメージが少なく工事費も低減できるが、口径が小さいためコンクリートに問題のある脆い箇所では、採取したコアが崩れてしまうなどの問題があり、劣化診断が困難であった。○こうしたなか、小口径コンクリートコアだけでなく、コア抜き後の壁面を撮影して診断する手法を併用することにより、大口径ボーリングにも劣らない診断を可能とした。○鉄塔コンクリート基礎へ適用した結果、小口径ボーリングによる診断が可能であり、大きなコスト低減を実現した。	<p>小口径空洞内撮影装置によるひび割れ箇所の撮影画像(側方視用カメラ)</p> 
備考	第5回インフラメンテナンス大賞(経済産業省部門)の受賞結果は、以下のとおりです。 https://www.meti.go.jp/press/2021/12/20211203002/20211203002.html	